



令和4年  
7月

さいたま市立木崎小学校 学校だより

きざき

令和4年6月30日（木）

TEL048-831-2281

<http://kizaki-e.saitama-city.ed.jp/>

E-Mail [kizaki-e@saitama-city.ed.jp](mailto:kizaki-e@saitama-city.ed.jp)

## 片目をつむって

校長 石川 顕一



▲交通安全教室

雨の後、新緑がひととき濃く感じられる今日この頃です。  
梅雨の中休みが真夏日にもなると、体が悲鳴を上げてしまいます。  
この暑い時期、熱中症は命に関わる問題となります。熱中症防止の危険性を踏まえると、子どものマスクは、外すべき時は外すよう引き続き指導してまいります。また、密の回避、石鹸による洗浄といった基本的な感染防止対策も変わらず行ってまいります。

ある子どもの話です。図画工作の時間に、黄色い画用紙に赤い着物を着たおひなさまを描きました。担任は「背景が黄色で着物が赤、おひなさまが映えますね。素晴らしいです。」と褒めました。うきうきした子どもは家に帰ってから、そのことを家の人に伝えました。すると、家の方は「実際に赤いブラウスを着て、下に黄色いスカートをはいたら、色が合わないね。ちぐはぐだから気を付けなさいね。」と言ったそうです。学校で褒められた絵のことは、何も話題にしてくれなかったと言います。

世の中の大人が全てこうというわけではありません。担任と家の人が入れ替わって同様な状況が起こるかもしれません。担任も家の人も、子どものためによかれと思って、気を付けさせたい部分をあれこれと掘り返したり、否定したりしてしまうようです。

また、子どもが部屋を散らかしているときだけ、「どうして片付けないの」と叱り、片付けているときは何も言いません。子どもが思うように行動してくれないときだけ、「早くしなさい」と叱り、決められた時間内に行動できたときは無言です。子どもは大きなストレスを感じていることでしょう。

そこで、次のような方法はいかがでしょうか。できているところを評価する方法です。例えば、部屋の整頓ができない子の場合、少しでも片付いている状態を見つけて、「わあ、片付いている。頑張って片付けたね。」と声を掛けるのです。

ダメ出しをされて、「頑張ろう」となる子どもはいませんが、できているところを評価されて、「頑張ろう」となる子どもはたくさんいます。私たち大人は、子どものできていない部分には片目をつむり、できている部分だけを称賛・承認するのです。きっと子どもの態度がよい方に変容するはずです。教育も子育ても急いで結果を求めるものではありません。大人も子どももともにストレスなく、日々気持ちよく過ごしていきたいものです。

ここは人生の先輩である大人が片目をつむりましょう。



▲福祉体験活動